

交通に関する民間企画提案募集

(1)交通に関する民間企画提案募集とは

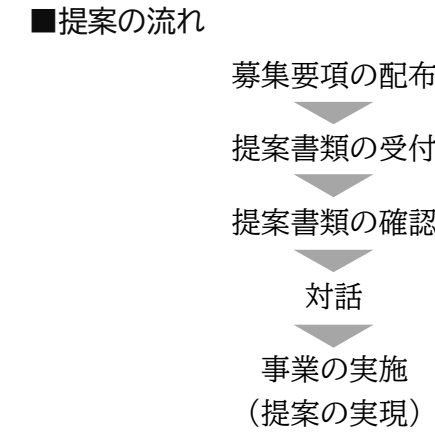
都市交通基本計画の改定にあたり、民間事業者の意欲的かつ実現性のある交通の提案を取り入れることにより、本市の交通課題や交通利便性の向上につなげていくため、「交通に関する民間企画提案」を幅広く募集したもの。基本条件を満たした提案について、提案者と実現に向けた対話を進めていく。

- 基本条件
- ①本市の「交通課題の解決や交通の利便性向上」に資する取組みであること

②提案者自らが実施主体となりうる取組みであること

③継続的な実施を目指す取組みであること

④本市施策の方向性に合致している取組みであること



(2)各社の提案概要

昭和自動車株式会社

(1)九州大学線への連節バス導入

事業概要

九州大学線へ連節バスを導入することで、朝・タラッシュ時における車内や九大学研都市駅および学内の混雑緩和や、運転手不足への対応に繋げる。

市に協力を求める内容

・関係者（交通管理者、道路管理者等）との協議の支援



※国土交通省HPより

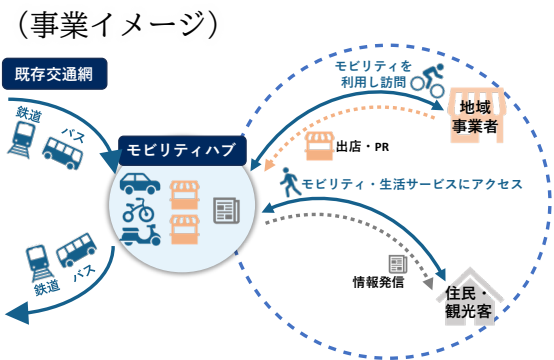
(2)九大学研都市駅前におけるモビリティハブの整備（共同提案者：九州電力株式会社）

事業概要

九大学研都市駅前の提案者の保有する待合い所をモビリティハブとして整備し、ラストワンマイルにおける交通手段の充実（ライトモビリティの活用）を図り、既存交通網との結節機能を強化することで、自家用車利用を低減し、公共交通利用を促進する。
また、地域の方々が集う場として提供し、地域コミュニケーションの活性化を図る。

市に協力を求める内容

・関係者（交通管理者、道路管理者等）との協議の支援
・取組みの認知拡大のための広報支援

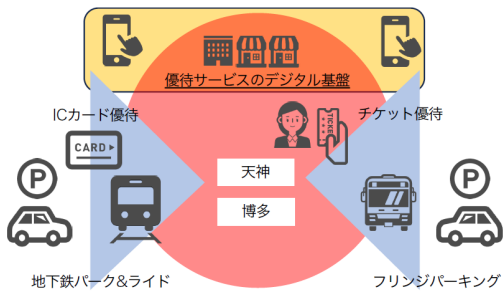


タイムズ24株式会社

(3) 駐車場優待サービスの共通化・デジタル化による利便性向上

事業概要

福岡市のパーク&ライド、フリンジパーキングの取り組みについて、優待手段が交通ICカード、また案内所での優待券手渡しとなるなど施策ごとに異なり、利便性向上の余地があることから、優待サービスの共通化、またスマートフォン等を活用した優待サービスとすることで、利用者の利便性向上を図る。



市に協力を求める内容

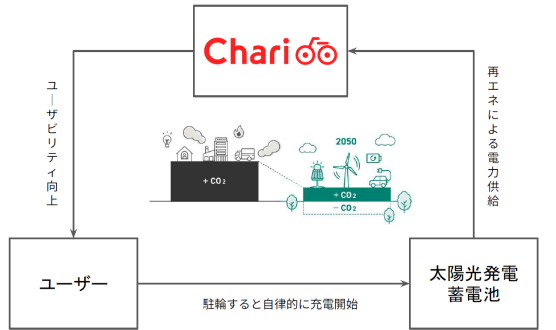
・各施策の関係部署、施設所管の関係部署、各交通事業者等との連携体制の構築の支援

チャリチャリ株式会社

(4) 再生可能エネルギー活用型のシェアサイクルポートの設置

事業概要

「発電・蓄電・サイネージ」を実装した、再生可能エネルギー活用型（太陽光発電等）のシェアサイクルポートを設置し、電動アシスト自転車のバッテリー充電を自立化することで、環境負荷の低減に貢献するとともに、市内の利用可能車体を増やし、市民が選択できる機会を拡大する。



市に協力を求める内容

・発電設備の設置コストにかかる補助金等による支援
・関係者（交通管理者、道路管理者等）との協議の支援

西日本鉄道株式会社

(5) 公共交通幹線軸の強化（連節バスの追加導入）

事業概要

人口推計等に基づく当社の予測では、福岡市の公共交通需要は今後も増加が続き、2035年から2040年にかけてピークを迎える可能性があるが、今後は運転士不足等により、現在のバスネットワークを維持することが困難になると考えられる。
こうした環境の中でも、利便性の高い公共交通ネットワークを維持していくため、1台で大量輸送が可能な連節バス車両を追加導入し、新たな走行ルートを主軸としたバス幹線軸の機能強化を図る。
※新走行ルート（案）：幹線道路（渡辺通り・城南線・国体道路・昭和通り・国道3号線等）を想定。

市に協力を求める内容

・連節バス車両購入支援
・連節バス走行環境整備の実施
・他交通事業者や市と協働した、乗継施設整備に関する検討
・「天神通線」供用のタイミングを見据えた道路活用方策の見直し等の検討



(連節バス)

(6) EVバスの導入推進

事業概要 西鉄バスグループにおいては、CO2排出量削減計画「2030年ロードマップ」を掲げ、アイドリングストップなどの取組みをはじめ、保有するバス台数のうち約1割のバス（約260台）をEVバスへ代替する等、各施策によりCO2排出量を対2013年度比で32.5%削減することを目標としている。

こうした当社の取組みは、現福岡市都市交通基本計画の『目標像Ⅲ環境にやさしい交通』に沿うところであり、福岡市の施策の方向性にも合致している取組みであると考えられるため、福岡市と協調して、より一層のEVバスの導入推進に取り組んでいく。



市に協力を求める内容

- EVバス導入費用の支援

(7) AI活用型オンデマンドバスの導入

事業概要 バス運転手不足による輸送力の減少は今後避けられない深刻な問題であるが、持続可能な公共交通ネットワークを目指していくためにも、オンデマンドバス「のるーと」を更に活用していく。オンデマンドバスは、線ではなく、公共交通空白地・不便地を含めたエリア（面）を網羅することができ、利用者の利便性向上にも大きく寄与することができると考えている。路線バスとの乗り継ぎなど既存公共交通との密な連携を図るため、アイランドシティ等で実績のあるAI 活用型オンデマンドバス「のるーと」を導入し、利便性が高く、持続可能な公共交通ネットワークの構築を図る。



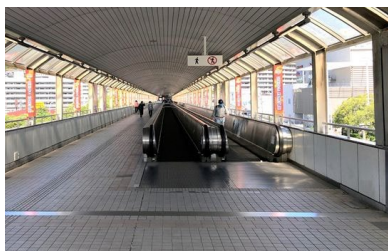
市に協力を求める内容

- ランニング費用の支援
- 運営方法等の検討
- 関係者（交通管理者、道路管理者等）との協議の支援

福岡ソフトバンクホークス株式会社

(8) 唐人町駅・ドーム間を結ぶ動く歩道の導入

事業概要 ドーム利用者等の安全性、利便性、快適性を高める施設として公共空間の活用により、高架構造で屋根付きの施設と動く歩道を設置し、地下鉄唐人町駅との連続した動線を確保するもの。「動く歩道」の整備により、地域の交通課題を解決するとともに、地域住民の利便性向上や、商業・観光活性化、環境負荷の軽減、都市・地域イメージ向上などを旨とする。



市に協力を求める内容

- 公共空間の占用許可
- 占用料の減免
- 動く歩道と唐人町駅の結節
- 国庫補助の検討

eMotion Fleet株式会社

(9) 事業者向け脱炭素型EVハブ拠点の整備 (共同提案者：自然電力株式会社)

事業概要 環境にやさしい交通システムの導入へ向けて、EV充電インフラ、再生可能エネルギーインフラ、EV・エネルギー運用センターを完備した九州発日本初の事業者向け脱炭素型EVハブ拠点を整備する。充電インフラを複数事業者でシェアすることで初期導入・運用コストを軽減し、商用車のEV化を加速させると共に、再生可能エネルギーを活用したグリーン充電を行うことで脱炭素社会の実現に貢献する。また、貨物・旅客事業者との連携を図り、EV充電・運用を集中受託し、EV輸送モデルを新たに構築することで地域交通と脱炭素化の課題解決を同時に推進することを目指す。



市に協力を求める内容

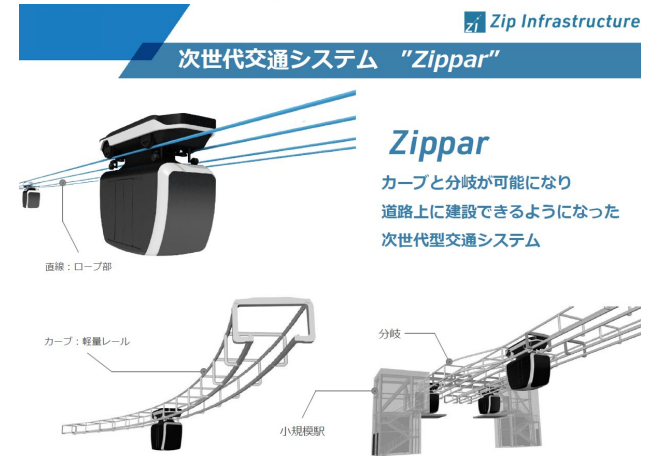
- EVハブ拠点の立地確保の支援
- EV充電インフラ、再生可能エネルギーインフラ等の脱炭素関連資産への投融資支援
- EVハブ拠点利用業者のEV導入にかかる補助金による支援

Zip Infrastructure株式会社

(10) 次世代交通システムの導入

事業概要 次世代交通システム(Zippar)を都心部などに導入することで、過度な自動車利用による交通渋滞の緩和や、バスの運転手不足への一助となることを目指す。

(システムイメージ)



市に協力を求める内容

- 法区分の決定に向けた官公庁との調整
- 導入可能性調査の実施、官民連携手法による資金拠出や上下分離方式等の検討